

る、能登半ノ浦の燐鑛は第三紀の砂岩、凝灰岩中に安山岩があり、其上に堆積せる貝殻層中に燐鑛が層狀を爲し、厚さは一定しない、志摩にあるのは、燐鑛が滿庵鑛と共に古生層珪岩中に在り、日向南那珂郡のは第三紀層中に球瘤狀を爲して散在し、品位劣等である。

新著紹介

○富士の地理と地質

石原初太郎著 古今書院發行

定價四圓貳拾錢

本書は著者が官幣大社淺間神社の依囑に依り、多年踏査討究の結果を富士研究總書の第五編として編纂せられたもので菊版四百頁、中に美麗なる富士全景寫眞(日繪)、富士山地質圖、富士山縱斷面圖、富士側火山圖、登山道距離傾斜比較圖、富士山麓一週道路斷面圖、中道斷面圖等、一〇九の寫眞又は圖版を挿入し、先づ筆を富士山の限界、廣義、行政區劃に起し、附近の地形、地質、地體構造を論じ、更に進んで富士火山脈から、富士山の噴火、地震現象、其の形態、水系、噴出物、山體構造等を詳記し、最後に氣象、産業、交通の諸事項を悉く網羅説述し、其間には古來の幾多歌人詩客の名什を澤山挿入してあつて、讀者は科學的に遺般世界的の名山に關する智識を収得すると同時に、歴史的、文學的の興趣をも味ふ事が出来る、記載事項は大部分著者の實地踏査に係るものであるから、確實で且つ實際に適切で、登山者は是非先づ以て必ず之

を一讀すべきである、寫眞は種々の位置、方向から富士を特に撮られたもので、見事な珍敷いものが多いが、網版の不出來な爲め鮮明で無いのが多いのは遺憾である。熔岩の記載は可なり詳しいが、造岩鑛物の性質の記事が簡略で、斜長石橄欖石輝石等の光學上諸性質の如きは、餘り専門的に爲るのを考慮せられたものか、記載の無い事項があるのは、特に此方面に興味を有する讀者は、幾分物足ら無さを感じしめるであらう。氣象と産業交通は、約一七〇頁の詳細な善く纏つた記述の中に歴史的の故事が處々にあみ込まれてあつて、讀んで面白く、此方面無二の好參考資料である。(一)

○信州高遠地方の地質

牛丸周太郎著菊版五九頁

十五萬分一地質圖、岩石薄片寫眞コロタイプ版四葉附
昭和三年六月 信濃教育會上伊那部會發行 非賣品(伊那町同會に申込みは實費寮圓にて受讓し得るならん)

高遠町附近の地質は日本地質學發祥の時代からナツマン、原田、小藤諸先生によつて注意を惹かれ、後には比企、小川大湯の諸博士によつて調査された。紹介者も嘗て鐵槌を此の附近に揮つた者であるが、地質の諸問題は明解すべく餘りに難かしいものであつて、其の闡明は南日本の地體構造論に大

寄與を爲すものであるから常に關心を保つたのであつた。本論文は牛丸理學士が大正十五年春夏の交東京帝國大學地質學科の卒業論文の材料として高遠を中心とした南北五里東西三里半の地域を調査され、加藤、坪井、小澤諸博士を初め坪谷、杉、佐伯諸氏の指導の下に研究された結果を記述したもので、即ち卒業論文の抄記である。地形論に於て今日行はれて居る赤石楔狀地の地形論を述べ、第二章地質論に於て伊那系の花崗岩塊の貫入は下部白堊紀層の堆積以後、新第三紀層の堆積以前であると確定し、領家統は二疊石炭紀層或は然らざる水成岩が花崗岩の噴起の爲めに接觸變質を受けて生じたものであるとした。伊那系と三波川系との境界即ち南日本の内帯と外帯との境界は衝上斷層で斷層面は約六十度の角を以て西に傾斜してなると觀察された。三波川系は領家統變質の原因たる花崗岩貫入に依るものでなく働力變質作用に依るものであるとする。第三章の岩石論は本篇の主要部であつて伊那花崗岩塊として(一)花崗片麻岩(二)角閃橄欖岩(三)花崗閃綠片麻岩(イ)不完全片狀花崗岩(ロ)片狀花崗閃綠岩(ハ)縞狀構造を有する岩石(ニ)眼球花崗岩(ホ)鹿鹽片麻岩に分つて岩石學上の記載と共に岩漿凝固期中及凝固後の側壓に對する鑛物及組織の變形を常に考慮して次の總括に於ける材料を提供して居る。猶ほ此の部分で著しいのは花崗岩及花崗閃綠岩塊が南部では複雲母花崗岩、中部では黑雲母角閃花崗岩、北部では黑雲母角閃花崗閃綠岩であつて造岩鑛物の種類、性状及晶出の順序から見ると南部は極めて徐々に冷却した部分であり

北部は中程度の速さで冷却したものであるとした事であつてこれは恐らく中央線に沿ふ花崗岩の噴起は此の附近では南の下から北の上へと向つたものであることを示して居るのであらう。花崗閃綠片麻岩の總括として述べられてある所を摘記すると伊那花崗岩塊の東縁の岩石に片麻岩構造を呈せしむるに至つた壓力は岩石凝固の晩期に働き始め、岩石が全く凝固した後までも引續いて働いたものと思はれるとあり、又花崗閃綠片麻岩塊の中央に産出する眼球花崗岩帯は壓力の働いた際全片麻岩塊の中立帯を形成して居たものと思はれるとある。重ねて伊那花崗岩塊の總括としてこの花崗岩塊の凝固の晩期に横壓力が働き始め、全く凝固した後も尙引續き働き、遂に片麻岩と結晶片岩との間に大衝上斷層の成生を見るに至つたものであるとされる。次に領家統を成す接觸變質砂岩及粘板岩角閃岩石灰岩並に安山岩及脈岩の記事あり。結論には次の如くある。白堊紀末或は第三紀初期に中央地溝線に沿ひ伊那花崗岩塊を形成せる岩漿の貫入があつて、其固結の晩期に北西からの一大側壓により、赤石楔狀地は菲崎靜岡地溝線の成生を伴ふ地塊運動を起し、こゝに前輪廻に於て略準平原の狀を呈せる地域は三千米の高所に持來され、甲斐ヶ根斷層崖を前面とし之より天龍川に向ふ緩斜面を背面とする。一大傾動を生成すると共に其の内部には小地塊運動を起した。従つて現在の地形は此の地の褶曲構造を形成せる地殼變動によつて支配されたのでなく、其以後に起つた是等大小の地塊運動によつて決定されたのであると。本論文に於て花崗岩噴起後に一

大側壓があつたことにしたことは南日本の地史上著しいことである。紹介者は赤石楔状地内の多くの衝動を起した側壓は、御坂世と下部鮮新世との間に行はれたであらうと云ふことを赤石楔状地の東側及南側の地層傾斜の模様から結論したいと思つて居る。若し果して然りであつたならば南日本の東端を南北向に振り向け換へた大側壓従つて赤石構造線(中央線)の大變動は中新世と鮮新世との間に來るべきである。本報告には東方即ち外帯の古生層については、述べられず従つて南東部なる戸臺附近の地質圖に於ける地質分布が不満足であると同時に高遠の北方の山地に於ける變質水成岩と花崗閃綠岩との境界なども充分に描出されてない。要するに本書は岩石學上の研究より構造論に材料を供した點に於て稀に見る有益な著述である。(N)

○關東大地震の真相

松山甚範著 四六版 四一頁

昭和三年五月發行 古今書院地理學パンフレット 定

價參拾錢

松山博士が地球物理學的見地から關東地震を解釋したもので、震災直後國民衛生第一卷第三號に掲載され今度其總單行本とされたのである。震災は今村明恒博士のとは違つて國府津小田原邊にありとし、震源の深さは地下三十軒位、剛體破壊によつて起つたのではなく粘性變形の爲めに地震を起したもので、其原因は關東平原下で南微東に向ふ歪力に依るとされたものである。地質學の材料は少し用ひられたが有弊は地球物

理學者だけあつて地質家の想ひもよらぬ説明もあつて面白い猶ほ原の記事の誤りは其儘として新に脱字などのあるのは單行本として見よいものではない。(S)

○朝鮮鑛床論の片鱗

中村新太郎著 古今書院發行

定價七十錢

古今書院パンフレットなるものが既に四冊出た秋田縣の鑛物界、地球内部に關する今日の智識、關東大地震の真相などいふものがこれである。本書もそのセリースの一である。朝鮮の金鑛分布、タンクス、ステン鑛床の性狀、鑛業令の鑛物、及同令以外の有用鑛物、文獻に見えた朝鮮の鑛産等を詳述し、最後に鑛産に因める朝鮮の地名が出てゐる。附圖金鑛地帶圖、これを通讀して朝鮮の鑛産物のいかに分布するかが明になる歴史の上から古い日本が朝鮮の南方の鐵器を最初に輸入したらしいことなども學ばれるのがうれしいことである。新羅に鋼製の食器が今も猶用ひられてゐることや、報德寺の大鐘なども見られることを學んだ筆者は單に經濟地理上のパンフレットとしてのみこの書を見たのではなかつた。この點厚く中村教授に感謝したい。(F)

○帝都近郊地理要習錄

古今書院發行 パンフレット

山本幸雄著 定價一圓

東京を中心として其周圍東西南北十二ヶ所の方面の地理學的形態を巧妙な素描と地圖によつて表はし、中等學校の生徒

を引率して行つた時、そこから何物を學ぶべきかといふことを列舉したものである。参考すべき文献を擧げてあつて、冗長な説明はしてない。そこに著者の主張がある、地理は實地の學問であつて、見なければならぬ。机上で聞くだけでは駄目であるといふのである。正しい地圖と手頃なスケツツ。帝都近郊に行けない遠隔の人々も指導上の参考にはなるであらうと信する。(F)

○世界現勢地圖、世界地勢地圖、世界産業交通

地圖 神戸市下山手通五、九ノ二地文館發行 木崎龍尾

著 軸製一本 拾圓 一組三十圓 大き五尺に三尺五寸

手頃な世界地圖の壁掛けとして、學校の應接室にでもかけると共に半ば家庭で子供の書齋にもかけられるやうな世界全圖がほしいと思つてゐた矢先に、木崎氏はランネット等積楕圓投影法によつて、日本を中心にした世界を書き、銅版の手数を省き、たゞちに寫眞石版オフセツト十四色刷乃至十六色刷で政治、地勢、産業といつた三大世界地圖の一組をつくりいかにも安價な多量的供給をやることにした。この圖は日本が中心だから、歐洲や北米が延びて見えるので前に、楕圓の下の空地に、ホンヌ圖法による歐洲、北米、東亞の三國を記して、その正しい形を理解せしむることにしてある。資料は一々その據る所を明にしたものであつて信用するに足りる。何はともあれ我國でまづかうした最初の世界圖が出来たこと

を喜びたい。何時迄も外國製の地圖そのまゝを引きうつしにする時代ではないからである。

中學校や小學校で教授用にするには或は小さいかもしれぬが、しかし運動場とか、圖書室とか、地理教室などの壁間にこれをかけて置いて、常に世界に親しませるやうにすれば、その教育上の効果は至大であらう、教官室などにかけて置いても妙である。價格も軸製にして一本十圓であるまづ安價なものである。この中で世界現勢圖位の一軸は世の中の一般の家庭にもこれをすゝめたい。(藤田)

新 著 即 報

○Place-names of Mineral-localities in Central Europe By F. Slavik and L. J. Spencer. *Mineralogical Magazine*, XXI, No. 121, June

○武藏野歴史地理 第一册總論東京北郊 高橋源一郎編 六月

○東京市外高田武藏野歴史地理學會發行 實價二圓五〇

○京都近郊一萬分一地形圖 東北部東南部西北部西南部の四葉 九月 陸地測量部 各葉五〇錢

○朝鮮鐵床論の片鱗 中村新太郎著 九月、東京古今書院

七〇錢

○地學雜誌 第四七五號 九月、阿弗利加觀察談(中目録)

珍しい西伯利亞の隕石(横山又次郎)白頭山(一)(山成不二磨)蒼鉛鐵と其產地並に蒼鉛鐵から見た日本及支那(一)(植